

宗英寺 横浜市青葉区鉄町 1783

宗英寺は、当地の地頭だった加藤権右衛門景正（大樹院一抽宗英）が開基となり、仁嶺寅恕（元和3年1617年寂）が開山したといひます。

新編武蔵風土記稿によると、除地、2町8段4畝、村の西にあり、禅宗曹洞派、開基は此の村の地頭加藤権右衛門景正なり、法名を大樹院一抽宗英と云、本尊は釈迦牟尼仏・江戸長谷寺の末寺・一抽山と号す と書かれている。

加藤権右衛門景正の父は太郎右エ門忠景と言ひて織田信長の家来であつた。景正は慶長7年徳川家康に従ひて、上鉄村と上州佐位群とに米地470石を与えられ、大阪兩度の戦いに従軍して手柄を立てたと記されている。境内には延宝4年辰と刻まれている石造庚申塔があり、三面に三猿、残り一面に雌雄の鶏が浮き彫りにされている。また、小高い墓地の上に釣鐘があり歴史を感じるお寺であつた。



山門



本殿



如意輪観音



当寺で有名な石造りの4面の庚申塔(見ざる・言わざる・聞かざる の3猿、雌雄の鶴)



六地藏



立派な鐘楼だが年末には鳴らすようです

